

令和元年度小松市立松東中学校 学校評価（年度末）

めざす児童生徒像

- ・前向きに取り組む生徒
- ・思いやりをもち、優しい心で接する生徒
- ・考えをはつきり伝える生徒

※児童生徒達結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策		
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者				
(学校で設定)	家庭や地域との連携による	学力向上	・定期テストや学力テストにおける基本問題の正答率を高める。(①を70%以上にする) ・家庭学習の充実を図る(②を50%以上にする)	① 定期アスト・字アストでの基本問題の正答率 76			77			①について基本問題の正答率は目標指標を達成した。1年生において基礎基本の学力の定着が不十分な生徒がいるので支援が必要である。 ②について家庭学習は中間評価より上昇したが、目標指数を下回った。3年生が改善したが、1、2年生が少ない傾向にある。	・基礎学力の定着が不十分な生徒に対し、支援のあり方について研修を行い、個別支援の充実を図る。 ・「みどりノート」で家庭での時間の使い方にについて見直しをさせ、学習時間の確保を図る。		
		目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策		
石川県共通	業務働きの方改善や学校運営	組織的な	①②の肯定的な回答を80%にする	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の標準化がなされている。 75			92			業務の標準化についてはかなり改善され、分担を意識し進めることができた。また勤務時間を意識するようになり、冬季の部活動時間との関連もあって時間外勤務もかなり減少している。	業務の標準化については分掌の中でも教務・生徒指導に関してはもう少し分担を考えられると思う。来年度途中で学校を移転することもあり、業務効率化の面でも新しい職員室での導線や施設の使い方などをしっかりと計画的に進めていかなければならない。		
		目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策		
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②③とも教員アンケートで肯定的に答えた教員の割合が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。 82			83			②③は肯定的に答えた教員が90%以上であったが、①は83%であり、目標を達成できなかつた。講師を招聘する機会がなかったことが原因であると思われる。道徳を中心に据えて校内研究を行っている。研究授業・公開授業を年間計画通りにを行うことができた。また小中連携では、本校教員が松東みどり学園小学部の授業にT2として参加する実践を初めて行った。	道徳の授業の評価は今年度始まつばかりであり、今後も評価につながるワークシートを工夫していかなければならない。また小中連携は、再来年度の義務教育学校開校に向けて、今年度と同様の授業参加型の実践を積み重ねていかなければならぬ。講師の招聘は来年度の課題である。		
	指導力の向上	授業	①②③④⑤とも生徒アンケートで肯定的に答えた生徒の割合が前期80%、後期90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 92	91		-1	92	96	4	・②と④の項目において、教師と生徒との差違が大きい。②については、教師が感じている以上に生徒は話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしていると感じているようである。④の〈記述力〉は、生徒が自分の考えがうまく伝わるよう工夫して書いていると答えた教師は100%であり、生徒の実感とのずれが10ポイントある。 ・⑤の振り返る活動は、教師・生徒ともに80%台であり、目標を達成することができなかつた。今年度強化していくと年度当初に確認した項目であり、引き続き課題である。	・授業の最初に課題の提示を丁寧に行う。教員と生徒が課題の内容、到達目標を共有し、十分理解したうえで取り組みに入れる。 ・授業の終末に、本時の目標が達成できたのかを、まとめたり振り返ったりしていくことをどの授業でも継続していくなければならない。	
	学力の定着	学力調査	①②③についての取り組みの実践・検証率での達成率90%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。 90			92			②については、学力向上ロードマップの年度当初の計画を実施しているが、それぞれの実施内容が学力向上ロードマップにどのように位置づけられているのか、という点が先生方に十分に浸透していなかつた。 ③については、年度後半は今年度は教員の授業交流や児童生徒の交流に力をおいたため、数値が下がっていると考えられる。	・学力向上ロードマップについては、PDCAサイクルを職員会などで定期的に検証し、ロードマップをもとに学力を向上させていくという意識を先生方に持たせる。 ・小中が統合するにあたって学力調査の結果を共に分析し、共通して課題となることについて共通実践を行う。		
	家庭学習		①②について、それぞれの学年で設定された時間・内容について生徒・教員・保護者とも達成率80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上) 92	77		-15	92	76	-16	①中間評価と大きく数値が変わるのは至らなかつた。生徒に学習計画の有用性がまだ感じられていないと考えられる。	・「みどりノート」を活用し、日常から時間の使い方にについて考え方、計画的に学習を進めるよう指導する。 ・定期テスト前や休暇前に学習の計画を立てさせ、保護者や教員が定期的に点検・評価し、継続できるようアドバイスを送るようにする。	
				集計									